

平成20年度日本水産工学会学術講演会並びに
平成20年度日本水産工学会春季シンポジウムの開催について（案内）

拝啓 時下益々御清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、平成20年度日本水産工学会学術講演会、平成20年度日本水産工学会春季シンポジウムについて、下記の通り開催致しますので、御案内申し上げます。

項目	会場	日時
通常総会	長崎大学 水産学部 大講義室 長崎県長崎市文教町1-14 詳細は、 http://www.nagasaki-u.ac.jp/	5月31日(土) 12:30-13:30
学会賞受賞講演	長崎大学 水産学部 大講義室	5月31日(土) 13:30-15:00
一般講演	長崎大学 水産学部 第1会場:大講義室(4F) 第2会場:第2講義室(1F)	5月31日(土) 15:15-17:30 6月1日(日) 9:00-18:00
懇親会	ルークプラザホテル 長崎県長崎市江の浦町17-15 TEL.095-861-0055 詳細は、 http://www.lukeplaza.co.jp/index.html	5月31日(土) 18:30-20:30 ※送迎バスをご利用ください 長大(17:45発)⇒ルークプラザ ルークプラザ⇒長崎駅前
春季シンポジウム	長崎大学医学部良順会館 ボードインホール 長崎県長崎市坂本1丁目12-4 詳細は、 http://www.med.nagasaki-u.ac.jp/med/	6月2日(月) 10:00-16:00

1. 学術講演会（別添プログラム参照）

講演者：講演者は日本水産工学会の会員とする。共著者に会員が含まれていれば、会員以外でも講演可。

講演方法：講演は1件当たり15分(発表12分, 質疑3分)。OHPまたはPCプロジェクターを利用した講演とする。

参加費等：参加費（会員4,000円, 非会員10,000円, 学生1,000円）

論文集購入（会員3,000円, 非会員5,000円, 学生1,000円）

懇親会：5月31日(土)18:30-20:30。

懇親会費は当日会場受付で徴収しますので、参加費と併せて支払い下さい。

なお、懇親会費は会員6,000円, 学生会員2,000円, 非会員6,000円（予定）

問合せ先：〒852-8521

長崎県長崎市文教町1-14 長崎大学水産学部 山口恭弘

TEL 095-819-2808 Email ayutrap@nagasaki-u.ac.jp

2. 春季シンポジウム（別添プログラム参照）

テーマ：九州西部の二枚貝漁場における環境修復と漁場造成

ー有明海を中心にその現状と課題ー

日時：平成20年6月2日（月）10:00～16:00

会場：長崎大学医学部 良順会館ボードインホール（長崎市坂本1丁目12-4）

参加費：論文集購入 会員3,000円、非会員5,000円（ただし学術講演会参加者は無料）

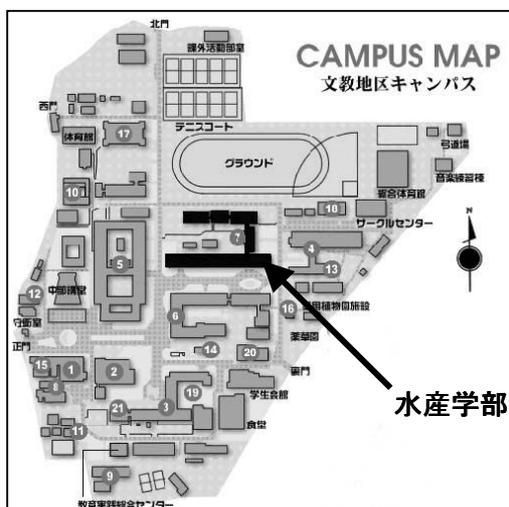
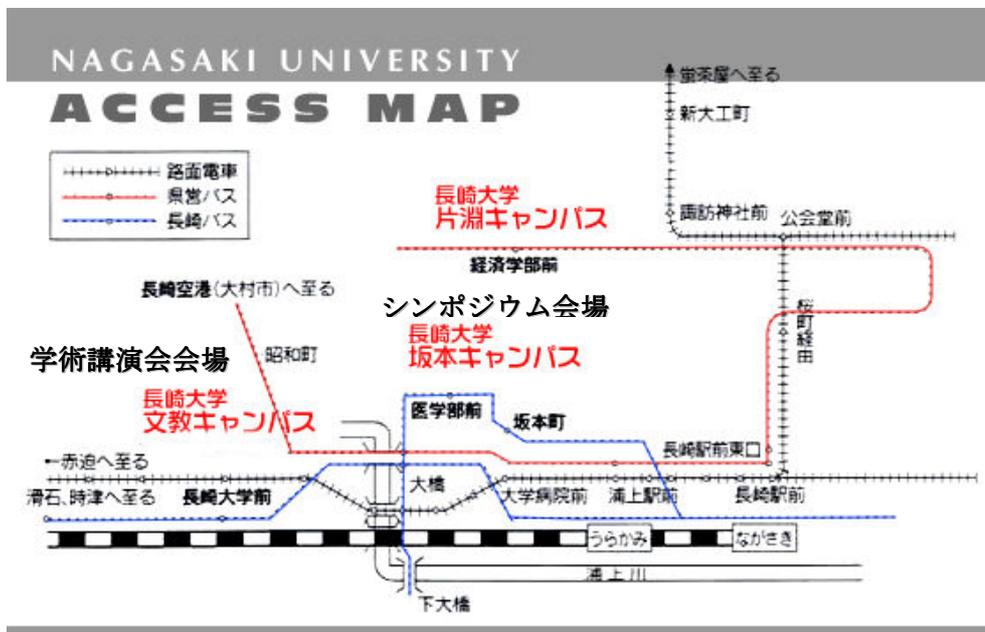
参加申込：本シンポジウム参加者のみ、申込をお願いします。申込期限は5月16日

申込先：鈴木健吾（西水研）FAX 095-850-7767

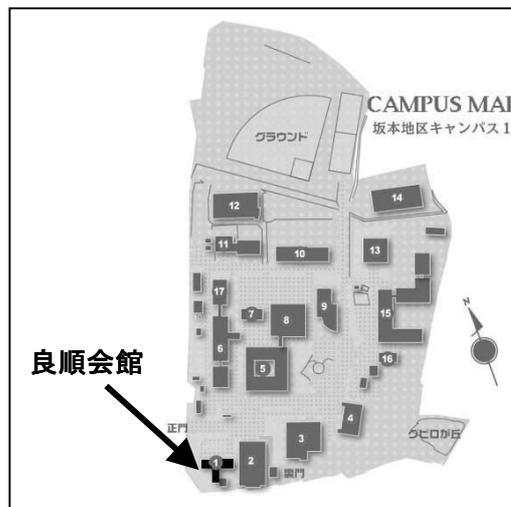
3. 宿泊先の案内

各自手配願います。

4. 長崎大学水産学部・長崎大学医学部良順会館 交通案内



長崎市文教町1-14



長崎市坂本1丁目12-4

平成 20 年度 日本水産工学会学術講演会 講演プログラム

第 1 会場

5 月 31 日 (土) 午後

- 15:15 Precise Positioning System via Web Based Control for Electric Flatcar on the Acoustics Tank
Ken Ishii・Yoshimi Takao ((独) 水産総合研究センター水産工学研究所)
- 15:30 リモートセンシングと GIS を用いた沿岸漁場整備支援システムの開発
橋本有紀子・濱野明・中村武史・滝川哲太郎 (水産大学校)
- 15:45 超音波バイオテレメトリーシステムへの水中雑音の影響に関する基礎的研究
宮城亜紀・宮本佳則・今泉智人・内田圭一・金澤誠 (東京海洋大学)
- 16:00 光学式センサーによる硝酸塩鉛直分布の測定事例
足立久美子・中山哲殿 ((独) 水産総合研究センター 水産工学研究所)、
新井雅之 (名古屋市役所)
- 16:15 寒冷地における水質予測モデル構築のための生物パラメーター取得の一実験
林田健志・坂本和佳 ((株) エコニクス)、山本潤・牧田佳巳 ((独) 土木研究所寒地土木研究所)、
増田亨 (北海道開発局 農業水産部水産課)
- 16:30 海底振動の貝殻に及ぼす影響について
田中ゆう子・五十嵐学・鈴木秀男 (東亜建設工業 (株))
- 16:45 ガラモ場生態系における付着珪藻の重要性
櫻井泉・山内繁樹 (北海道立中央水産試験場)、金子友美 ((株) 日本海洋生物研究所)
- 17:00 人工干潟における地温と二枚貝の成長との関係について
小泉知義・市村康 (日本ミクニヤ (株))、中村泰男 ((独) 国立環境研究所)
- 17:15 砂面の飽和・不飽和に伴う硬度の変化が小型甲殻類の潜砂に与える影響
梶原直人・高田宜武 ((独) 水産総合研究センター 日本海区水産研究所)

6 月 1 日 (日) 午前

- 9:00 小川原湖における漁場改善の試み
石岡昇・藤田孝康 ((社) 水産土木建設技術センター)、徳岡誠人 (日本ミクニヤ (株))、
長崎勝康 (青森県水産総合研究センター内水面研究所)、
楠富寿夫・宮本英尚 (水産庁漁港漁場整備部計画課)
- 9:15 八代海における流動・水質環境特性について
押谷美由紀・伊藤靖 ((財) 漁港漁場漁村技術研究所)
- 9:30 藻場における炭素固定機能について
伊藤靖・中野喜央 ((財) 漁港漁場漁村技術研究所)、松下訓 (いであ (株))、
横山純 (水産庁漁港漁場整備部)
- 9:45 延岡市北浦海域におけるクロメ藻場造成について
園部幸治・川畑三彦 (住友大阪セメント (株))、坪田晃誠・木下実・内田佳孝 (九州電力 (株))、
木村和則 (北浦漁業協同組合)、廣川祐介 (宮崎県東臼杵農林振興局)、河野富一・河野初憲 (延岡市)
- 10:00 貝殻を有効活用したブロックの藻場造成実験
伊豫田紀子・上野一彦・山田耕一 (五洋建設 (株))

- 10:15 カジメ群落の保全に配慮した人工リーフ改修の提言と実施
木下淳司 (神奈川県水産技術センター相模湾試験場)
- 10:30 人工動揺基質へのホソメコンブ固着力に関する研究
北原繁志 ((独) 寒地土木研究所水産土木チーム)、今林弘 (北海道開発局函館開発建設部)、
岩成正勝 (パブリックコンサルタント (株))
- 10:45 アマモ種子の鉄コーティングによる着底・生長促進技術の開発
瀬戸雅文 (福井県立大学生物資源学部)、竹内登世子 (福井県立大学大学院生物資源学研究科)
- 11:00 魚類の食害防止ネットを用いた核藻場造成実証実験について (その3)
鈴木裕明・川畑三彦 (住友大阪セメント (株))、坪田晃誠・木下実・内田佳孝 (九州電力 (株))、
松尾照久 ((社) 水産土木建設技術センター長崎支所)、
末松丈右・山仲洋紀 (壱岐市アワビ種苗センター)
- 11:15 海藻着生プレートと食害防止ネットを用いた対馬市豆酩海域における核藻場造成について
鈴木裕明・川畑三彦・園部幸治 (住友大阪セメント (株))、
小島一・犬束敬史 ((財) 対馬栽培漁業振興公社)
- 11:30 静岡県榛南地区における混獲から見た植食性魚類の生態について
桑原久実 (水産工学研究所)、綿貫啓 (アルファ水工コンサルタント)、
寫本淳司・海野幸雄 (静岡県水産振興室)
- 11:45 カゴを用いたウニ除去試験について
桑原久実・川俣茂 (水産工学研究所)、綿貫啓 (アルファ水工コンサルタント)、青田徹 (不動テトラ)

6月1日(日) 午後

- 13:00 人工魚礁の規模と単位漁獲の変化
山内繁樹・櫻井泉・金田友紀 (北海道立中央水産試験場)、
清水晋・藤森康澄・木村暢夫 (北海道大学大学院水産科学研究院)
- 13:15 2.0m 角型魚礁の効率的な運用効果について
松谷茂・北野潔・塚本一生・中田雄大 (日本リーフ (株))、新井健次 (新井技術士事務所)、
加藤智之 (オリエンタル・テクノ (株))
- 13:30 開放性湾の循環流の発生機構に関する基礎的研究
大竹臣哉・夏目あかね (福井県立大学)
- 13:45 魚礁の流影規模の推定法
大竹臣哉 (福井県立大学)、国平善行 ((株) ホクコン)
- 14:00 貝殻魚礁における魚類の摂餌状況
片山貴之・加村聡 (海洋建設 (株))、原口浩一 (広島大学)、
伊藤靖 (財) 漁港漁場漁村技術研究所)
- 14:15 ズワイガニの保護育成礁及び周辺海域における生息状況
伊藤靖・三浦浩 ((財) 漁港漁場漁村技術研究所)、
長浜達章 (兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター)
- 14:30 北海道厚田沿岸におけるハタハタ産卵状況～自然環境調和型沿岸構造物のための基礎調査～
牧田佳巳・山本潤・渡辺光弘 ((独) 土木研究所寒地土木研究所)、
酒向章哲 ((株) アルファ水工コンサルタント)、増田亨 (北海道開発局農業水産部水産課)

- 14:45 英虞湾に設置した泥質人工干潟における底生生物の変化とアサリの成長実験
今井大蔵 (芙蓉海洋開発)、加藤忠哉 (三重県産業支援センター)、
アマード ダブワン (あの津技研)、片倉徳男 (大成建設)
- 15:00 松名瀬干潟における砂漣形状とアサリ稚貝分布との関係
桑原久実 (水工研)、田中良男 ((株) 東京久栄)、齊藤肇・南部亮元 (水産工学研究所)
- 15:15 一様流下において底質特性がアサリ稚貝の安定性に与える影響
桑原久実 (水産工学研究所)、田中良男 ((株) 東京久栄)、
齊藤肇・南部亮元 (水産工学研究所)
- 15:30 長崎県有明海沿岸域でのアサリ等増殖漁場造成技術の開発
中川元也・石村忠昭 (芙蓉海洋開発 (株))、島谷学 (五洋建設 (株))、
金巻精一 ((社) マリノフォーラム 21)、的野博行 (水産庁)
- 15:45 帯状覆砂によるアサリ漁場造成技術の開発
工藤倫彰・石村忠昭・中川元也 (芙蓉海洋開発 (株))、佐貫宏 (五洋建設 (株))、
金巻精一 ((社) マリノフォーラム 21)、的野博行 (水産庁)
- 16:00 ロンドン条約における魚礁設置の議論について-投棄 dumping と配置 placement のせめぎ合い-
明田定満 ((独) 水産総合研究センター水産工学研究所)
- 16:15 真名瀬漁港における自然調和型沖防波堤の効果調査
吉野真史・伊藤靖 ((財) 漁港漁場漁村技術研究所)、
綿貫啓 ((株) アルファ水工コンサルタンツ)、吉田幸司・高梨順一 (葉山町都市経済部)
- 16:30 溝付消波ブロック周辺での磯根生物の分布状況について
河野晴行・近藤信一郎 (三省水工 (株))、萩野静也 ((株) ジーエスエンジニアリング)
- 16:45 浚渫土砂を活用した津波避難施設の検討について
竹腰隆志・大塚寿浩 (北海道開発局帯広開発建設部十勝港湾事業所)、
小玉茂義 ((独) 寒地土木研究所寒冷沿岸域チーム)、阿部島直哉 ((株) クマシロシステム設計)、
今津雄吾 ((株) アルファ水工コンサルタンツ)、松下圭吾 ((社) 寒地港湾技術研究センター)
- 17:00 根室海峡沿岸の漁業地域の人口地理学的分析
渡辺一俊・佐伯公康・高橋秀行・長谷川誠三 ((独) 水産総合研究センター 水産工学研究所)
- 17:15 サケ定置網漁業における陸揚・魚体加工の工程分析-1 工程分析図の作成
佐伯公康・高橋秀行・渡辺一俊・長谷川誠三 ((独) 水産総合研究センター 水産工学研究所)
- 17:30 サケ定置網漁業における陸揚・魚体加工の工程分析-2 労働負荷分析
高橋秀行・佐伯公康・渡辺一俊・長谷川誠三 ((独) 水産総合研究センター 水産工学研究所)
- 17:45 人工アマモ場におけるアマモの育成と造成基盤材
谷本照己・星加章 ((独) 産業技術総合研究所)、小山田久美 (JFE 技研株式会社)、
寺脇利信 (富山県農林水産総合技術センター水産研究所)

第2会場

5月31日(土) 午後

- 15:15 近接された2つの定置網の漁獲類似性について
山脇信博 (長崎大学水産学部)、岩坪孝信 (大東魚類(株))、馬渡春男 (壱岐市箱崎漁協)、
西山嘉乃 (長崎大学大学院生産科学研究科)、山口恭弘 (長崎大学水産学部)
- 15:30 大型二段箱式落網の側張りに作用する張力について
石戸谷博範 (神奈川水技セ)、辻俊宏 (石川水総セ)、丸山克彦 (新潟水海研)、
井野慎吾 (富山水試)、前田英章・松宮由太佳 (福井水試)、熊木豊 (京都海洋セ)
- 15:45 大型二段箱式落網の立ち碇の作用について
石戸谷博範 (神奈川水技セ)、辻俊宏 (石川水総セ)、丸山克彦 (新潟水海研)、
井野慎吾 (富山水試)、瀬戸久武 (福井水試)、上野陽一郎 (京都海洋セ)
- 16:00 ダイマーニ綯網の流体力特性
熊沢泰生 (ニチモウ)、胡夫祥・塩出大輔・東海正 (東京海洋大学)
- 16:15 袋網の内部流速と流体抵抗
古川恵一・不破茂 (鹿児島大学水産学部)
- 16:30 沿岸の漁具および施設に働く波力の簡易計算法
井上悟 (水産大学校)
- 16:45 コッドエンド自律開閉型仔稚魚層別採集トロール網の開発研究
野呂英樹・胡夫祥 (東京海洋大学)、大関芳沖久保田洋 (中央水研)、
東海正・塩出大輔 (東京海洋大学)、戸松千秋 (鶴見精機)
- 17:00 標準 MOHT に対して小型 MOHT と IKMT にみられた網口回避サイズ選択性について
鈴木元道・東海正 (東京海洋大学)、大関芳沖・久保田洋
(独) 水産総合研究センター中央水産研究所)、胡夫祥・塩出大輔 (東京海洋大学)
- 17:15 アマモ場への影響を緩和する桁網漁具の開発実験
松下吉樹・阿保純一 (長崎大学水産学部)、梶川和武 (水産大学校)

6月1日(日) 午前

- 9:00 大村湾底曳網漁場のマクロベントスについて
西山嘉乃・草原陽香・中川由美子 (長大院生産)、山脇信博・山口恭弘 (長大水産)
- 9:15 タコかご漁具の小型个体脱出装置の開発
江幡恵吾・伊藤卓洋・安樂和彦・加世堂照男・尾上敏幸 (鹿児島大学水産学部)
- 9:30 東京湾あなご筒漁におけるマアナゴの入筒時刻の計測
吉田空久・内田圭一・宮本佳則・金澤誠・南場敬志 (東京海洋大学)
- 9:45 東シナ海産アマダイに対する釣針選択性
山下秀幸 (東京海洋大学、(独) 水産総合研究センター開発調査センター)、
東海正 (東京海洋大学)
- 10:00 擬餌針の挙動から推測されるケンサキイカの擬餌捕捉行動について
山根猛・光永靖 (近畿大学農学部)、深田耕一・毛利雅彦 (水産大学校)
- 10:15 流水中におけるケンサキイカ用擬餌針の挙動について
山根猛 (近畿大学農学部)、井上悟 (水産大学校)

- 10:30 映像解析によるナマコ桁網漁場の底質評価
石川敦士（長崎大学大学院生産科学研究科）、垣内貴志（ユーエルアクアティクス（株））、
 草原陽香（長崎大学大学院生産科学研究科）、山口恭弘（長崎大学水産学部）
- 10:45 太陽電池による鉛蓄電池への充電特性
 陸子・酒井久治（東京海洋大学）
- 11:00 漁船機関の通常設備が燃料消費量に及ぼす影響
岡真也・酒井久治・城直政一・北野庸介・勝見健・勇洋二・米元博明・
 熊谷和哉・坂本牧夫（東京海洋大学）
- 11:15 船体付加物が船体横揺れに及ぼす影響—円筒形模型を用いた水槽実験結果—
溝口弘泰・武田誠一（東京海洋大学）
- 11:30 高速沿岸漁船に対するストリップ法の適用について
 —第3報：復原力の前進速度影響に対する実験的検討—
升也利一（水産工学研究所）
- 11:45 サンマ棒受け網漁船への極小造波抵抗理論の適用について
升也利一（水産工学研究所）

6月1日(日) 午後

- 13:00 日本の漁船スパンカーの空力特性
芳村康男（北海道大学水産科学研究院）、雨宮伊作（航海訓練所）、
 鋤柄みのり・今泉哲（研究当時 北海道大学水産学部）
- 13:15 二機二軸二舵船の鶴洋丸旋回性能に関する考察
兼原壽生・青島隆・木下宰・内田淳・島田亜加里・高山久明（長崎大学水産学部）
- 13:30 鶴洋丸ダンフォースアンカーの把駐性能に関する研究
 兼原壽生・青島隆・木下宰・内田淳・脇彩乃・高山久明（長崎大学水産学部）
- 13:45 漁船労働の特徴と技能習得について
川崎潤二・下川伸也・奥田邦晴・濱口正人（水産大学校）、高橋秀行（水産工学研究所）、
 高山久明（長大水）、木村暢夫（北海道大学）
- 14:00 浅海内湾域における機能修復手法の検討（その1）：事業概要と機能評価モデルの構築
乾悦朗・杉岡伸一・吉永潔・中川元也（芙蓉海洋開発（株））、
 金巻精一（（社）マリノフォーラム 21）
- 14:15 浅海内湾域における機能修復手法の検討（その2）：要素技術における効果の検証
吉永潔・杉岡伸一・乾悦朗・中川元也（芙蓉海洋開発（株））、
 金巻精一（（社）マリノフォーラム 21）
- 14:30 カキ殻石詰式へキサなまこ礁の開発
佐藤誠雄・片岡秀峰（へキサフォ（株））、田所悟（（有）自然環境調査）、
 安藤亘（（社）水産土木建設技術センター）
- 14:45 なまこ増殖礁の開発について
阿部豊太郎（三井住友建設（株））

- 15:00 追直漁港周辺に生息するマナマコの成長式推定の試み
岡本健太郎・山本潤（(独) 土木研究所寒地土木研究所）、
 佐藤朱美（北海道開発局室蘭開発建設部室蘭港湾事務所）、峰寛明・田保知佳（(株) エコニクス）
- 15:15 副次機能を具備した漁港施設の整備に関する考察
 伊藤靖・三浦浩（(財) 漁港漁場漁村技術研究所）、深瀬一之（(株) 水土舎）、
 横山純（水産庁漁港漁場設備部計画課）
- 15:30 アサリ増殖場造成の基質としてのカキ殻加工固形物利用の試み
日向野純也（水研セ養殖研究所）、生嶋登・鳥羽瀬憲久（熊本県水産研究センター）、
 那須博史（熊本県東京事務所）、山口恵（アスク鳥羽）、今井芳多賀（かいがら工房）、
 小林節夫（小林建築事務所）
- 15:45 アサリの粗放的種苗生産および中間育成の試み
田中ゆう子・五十嵐学・鈴木秀男（東亜建設工業（株））
- 16:00 北海道北部における大型多年生海藻除去後の植生
川井唯史・合田浩朗（北海道立稚内水産試験場）、本家一彦（利尻地区水産技術普及指導所）、
 赤池章一（北海道立函館水産試験場）
- 16:15 北海道東部のコンブ漁場における大型海藻類の競合実態の検討
伊藤博・坂西芳彦（(独) 水産総合研究センター北海道区水産研究所）
- 16:30 新型スポアバック法による海藻の着生効果について
石田和敬（国際航業株式会社）、安藤亘（(社) 水産土木建設技術センター）、
 木村智也（水産庁漁場資源課）、田所悟（(有) 自然環境調査）、南里海児（(株) ベントス）
- 16:45 増殖場における藻場の不形成要因とその対策について
中村憲司（シャトー海洋調査）、安藤亘（(社) 水産土木建設技術センター）、
 木村智也（水産庁漁場資源課）
- 17:00 漁業者による磯焼け対策の取り組みについて
安藤亘（(社) 水産土木建設技術センター）、戸高留治（大分県漁業協同組合名護屋支店）、
 田村真弓（水産庁漁港漁場整備部整備課）、渡辺耕平（西日本オーシャンリサーチ）、
 中嶋泰（オフィス MOBA）
- 17:15 鹿児島県沿岸に出現するウニ3種の水槽内での行動—移動速度の解析と日周性および砂の影響—
川俣茂（(独) 水産総合研究センター水産工学研究所）、
 田中敏博・吉満敏（鹿児島県水産技術開発センター）、今吉雄二（鹿児島県大島支庁）
- 17:30 柱状型藻礁におけるウニ這い上がり抑制効果について
峰寛明・藤井淳夫（(株) エコニクス）、渡辺浩二・
 安藤亘（(社) 水産土木建設技術センター）、木村智也（水産庁漁場資源課）
- 17:45 漁村地域におけるCO2収支評価のための森林・海洋による固定量の試算
本松敬一郎・古屋温美（北海道大学）、長野章（公立はこだて未来大学）、
 米田義昭（北海道立工業技術センター）、隈江純也（北電総合設計株式会社）、
 上川浩幸（北海道海開発局函館開発建設部）、中泉昌光・黒澤馨（水産庁漁港漁場整備部）、
 佐藤元則（(財) 漁港漁場漁村技術研究所）

研究発表方法に関する注意とお願い

- ・ 講演会では、**Windows を OS とした PC と PC プロジェクタ**を各会場に一台用意いたします（持込の PC による発表はお断りいたします）。なお、全ての会場で OHP は使用可能ですが、スライドは使用できません。
- ・ プレゼンテーション支援ソフトウェアは **Microsoft PowerPoint2003** に統一いたします（他のソフトウェアの持込、インストールはお断りいたします）。他の OS をお使いの方は、Windows 用 PowerPoint2003 への変換をお願いいたします。
- ・ PC の環境は、**Windows と Office2003 の標準インストール**された環境のみとお考えいただき、ご準備ください。
- ・ Office2003 以外のソフトウェアから特殊な図や数式についてオブジェクトの挿入あるいは貼り付けをする場合、上記の標準環境では不完全な形で表示されることがありますので、十分ご確認ください（この問題が生じた場合、「形式を指定して貼り付け」を選択し、ピクチャ等の画像として貼り付けて頂くと問題が解決されることがありますので、お試しください）。
- ・ 特殊なフォントについては、標準環境では置換できないことがあります（例えば、Macintosh 等異なるプラットフォーム上で作成したグラフや図等で使われる文字等）ので、ご確認ください。
- ・ **PowerPoint ファイル及びその他必要なファイルは CD-ROM または USB メモリにご用意ください。**
- ・ ファイルはご発表前に予めハードディスク上の指定するフォルダにコピーをして頂く（お昼休みや 2 日目については初日のセッション終了後等の時間を利用してコピーをしてください）ことをお願いします。あるいは個人の発表持ち時間の中でコピー作業を行って頂くこととなります。また、他のファイルとのリンクを含むアニメーションを利用する場合は、ハードディスクへのコピー時にリンク先のご確認をお願いいたします。コピー及び確認作業に時間がかかると予想される方は、時間に余裕をもって予め作業を完了していただき、セッションの運営に支障を与えないようご協力ください。
- ・ **研究論文発表の時間は、15 分（質疑応答ならびに発表ファイルの操作を含む）です。**

◎ご質問等がありましたら、長崎大学水産学部・山口恭弘（jsfe2008@w3.fish.nagasaki-u.ac.jp）までお問い合わせください。

日本水産工学会 平成20年度春季シンポジウム
共催（手続き中）：(独)水産総合研究センター西海区水産研究所

九州西部の二枚貝漁場における環境修復と漁場造成 (有明海を中心にその現状と課題)

日時：平成20年6月2日(月)10時～4時
会場：長崎大学医学部順良会館(長崎市長崎市坂本1丁目12番4号)ボードインホール
参加費：論文集購入 会員3,000円、非会員5,000円、ただし、学術講演会参加者は無料
参加申し込み：本シンポジウム参加者のみ、申し込みをお願いします。申し込み期限5月16日
申し込み先：鈴木健吾(西水研)：FAX 095-850-7767(西水研)

コンビーナー：鈴木健吾(西水研)、日向野純也(養殖研)、齊藤肇(水工研)、河邊玲(長崎大学)

開催趣旨：

沿岸域における二枚貝の生物生産が持つ役割として、漁業資源としての価値だけでなく、生態系の健全な物質循環に貢献する代謝機能の重要性も注目されている。これらの価値と機能を適切に発揮させるため、各地で環境修復や漁場造成など二枚貝の増殖を手段や目標とした試みが行われているが、漁場環境や対象生物の生活史に個別の特性があり、増殖効果をもたらす対策もそれぞれ異なるのが実情である。本シンポジウムでは、有明海を中心とした九州西部の二枚貝漁場の現状と環境修復および漁場造成への取り組み事例を取り上げ、最新の現地試験の成果から今後の展開に必要な諸条件の抽出を試み、今後の技術発展の方向性を探る。

プログラム(案)

10:00～10:05 開会挨拶 日本水産工学会会長 武田誠一
10:05～10:10 企画趣旨説明

研究発表・話題提供 (発表25分、質疑5分)

10:10～11:40 第1部 水質からのアプローチ

1. 有明海奥部における貧酸素水塊の発生状況 木元克則(西水研 有明・八代センター)
2. 諫早湾内の諫早市小長井町地先干潟の貧酸素化の実態とその対策
平野慶二(長崎県総合水産試験場 環境養殖技術開発センター 漁場環境科)
3. 大村湾(形上湾)におけるカキと曝気を併用した水質浄化
山口仁士(長崎県環境保健研究センター 研究部)

11:40～13:05 昼休み

13:05～14:05 第2部 底質からのアプローチ

4. 有明海におけるタイラギ稚貝分布状況と底質特性 鈴木健吾(西水研 資源培養研究室)
5. 有明海におけるタイラギ漁場造成を目的とした覆砂実証試験
吉田 司(日本水産資源保護協会 技術専門員)

14:05～14:15 休憩

14:15～15:15

6. 熊本県アサリ漁場における漁場造成の試み～砕石を用いたアサリ増殖手法～
生嶋 登(熊本県水産研究センター 浅海干潟研究部)
7. 曳航式微細気泡装置によるサルボウ漁場の底質改善 藤田孝康(日本ミクニヤ株式会社)

15:20～15:50 総合討論

15:50～15:55 閉会挨拶 日本水産工学会企画委員長 大竹臣哉

本シンポジウムはCPDプログラムとして認定しています。